

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学 I	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)、新課程教科書傍用基本と演習 テーマ数学 I (数研出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基つて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	30%
c. 数学的な技能	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	30%
d. 知識・理解	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
5	4	9	数学 I 第1章 数と式 第1節 式の計算 整式 整式の加法と減法 および乗法 因数分解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整式の計算や因数分解などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>・既知の事項をもとにして複雑な計算や因数分解を考察することができる。</li> <li>・具体的な問題に対して、整式の計算や因数分解の考えを利用することができる。</li> <li>・整式の計算や因数分解に関わる公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		6	第2節 実数 実数 根号を含む式の計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実数や根号を含む式の考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>・既知の事項をもとにして実数や根号を含む式の複雑な計算を考察することができる。</li> <li>・具体的な問題に対して、実数や根号を含む式を計算したり、その考えを利用することができる。</li> <li>・実数や根号を含む式に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		5	第3節 1次不等式 1次不等式 1次不等式の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1次不等式の考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>・既知の事項をもとにして1次不等式を考察することができる。</li> <li>・具体的な問題に対して、1次不等式の考えを利用することができる。</li> <li>・1次不等式に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○

前期	6	10	第2章 数と式 集合 命題と条件 命題と証明	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合の考え方や命題に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>既知の事項をもとにして、集合の考えや証明の方法を考察することができる。</li> <li>具体的な問題に対して、集合の考えを利用したり、証明することができる。</li> <li>集合、命題に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○		
		10	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大最小	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次関数とグラフの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>既知の事項をもとにして、2次関数を考察することができる。</li> <li>具体的な問題に対して、2次関数の最大最小や2次関数の方程式を利用することができる。</li> </ul>	○		○		○		
		計 40		第1回考査			○	○	○		
			2次関数の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次関数に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>						○	
		7	32	第2節 2次方程式と2次不等式 2次方程式 グラフと2次方程式 グラフと2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次方程式・2次不等式の考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>既知の事項をもとにして複雑な2次方程式・2次不等式を考察することができる。</li> </ul>	○		○			
		8			<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な問題に対して、2次方程式・2次不等式とグラフの考え方を利用することができる。</li> </ul>			○			
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次方程式・2次不等式に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>							○		
				第2回考査			○	○	○		
	後期	10	14	数学 I 第4章 図形と計量 第1節 三角比 三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角比の考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>既知の事項をもとにして三角比の拡張や相互関係などを考察することができる。</li> <li>三角比を用いて、直線とx軸とのなす角やビルの高さを求めるなど、具体的な問題に対して、三角比の考えを利用することができる。</li> <li>三角比に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○	
			14	第2節 三角形への応用 正弦定理 余弦定理 正弦定理と余弦定理の応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>正弦定理、余弦定理などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>正弦定理、余弦定理をもとにして複雑な図形を考察することができる。</li> <li>具体的な問題に対して、正弦定理、余弦定理の考え方を利用することができる。</li> <li>正弦定理、余弦定理に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○	
28				第3回考査			○	○	○		
12			12	数学 I 第5章 データの分析 データの整理 データの代表値 データの散らばりと四分位範囲 分散と標準偏差 データの変換	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均、分散、標準偏差などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> </ul>	○		○			
1		<ul style="list-style-type: none"> <li>平均、分散、標準偏差の考え方を基にして、いろいろなデータを考察することができる。</li> <li>具体的な問題に対して、平均、分散、標準偏差などの考え方を利用することができる。</li> </ul>					○				
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>平均、分散、標準偏差、共分散、相関係数、箱ひげ図などに関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>							○		
		3	28	傍用問題集等を用いての問題演習	数学 I の内容を総復習			○	○	○	
			40		第4回考査			○	○	○	
<p>【その他】          以下のような学習サイクルをつくること。          → 予習（理解できる問題とできない問題の区別）          ↑          ↓ 授業（理解できた問題の定着および理解できなかった問題の確認）          ↑          ↓ 復習（理解できなかった問題の定着）          ↑          ← 授業で扱わなかった問題を解く（充実・発展）</p>											